

令和3年度 区有施設整備アドバイザー意見聴取結果

学校施設の標準的な仕様等（設計標準）の作成について

	アドバイザー意見	区の考え
1	オープンスペースは、できれば学年でユニットを組んで、複数学級の先生達を使い合うような形状が望ましいが、学級数が増になる場合等は運用が難しい実情もある。教室配置等を工夫して、学級数が増した場合でも学年のまとまりが崩れないような検討をするべきである。	オープンスペースについての課題や、学級数が増した場合でも学年のまとまりが崩れないような教室構成について検討する旨を記載した。
2	改築後の学校規模を検討するにあたり、ランドセルロッカーを教室外に出す等教室内の家具配置等を工夫し、限りある普通教室の面積を有効に活用できるような検討も必要である。	計画の際の検討ポイントに、家具の工夫等について記載した。
3	学校のオープンスペースの使い方を考える際に、施設整備面だけではなく、運用面の検討も行い記載していく必要がある。	オープンスペースが有効に使われる空間となるために必要となる運用面の観点について記載した。
4	教室まわりにオープンスペースを整備すると同時に、閉じた空間を整備する必要性についても検討すべきである。	ご意見の趣旨を踏まえ、閉じた空間（クールダウンスペース等）の必要性について記載した。
5	学校施設の地域開放を検討するにあたり、教員の負担軽減の観点から、施設管理の運用面の検討を行っていく必要がある。	施設管理の運営面について複合施設の施設管理を含めた検討の必要性について記載した。今後の学校施設更新を進めていく際には、施設管理の方法等について整理し、施設管理業務の民間活力の活用も含めた複合施設との一体的かつ効果的な施設管理について検討していく。
6	教職員の働き方改革が求められる中、学校内における教職員の働く場所について、職員室以外の場所への広がりを含めた検討が必要になると考えられる。	管理諸室の計画の際の検討ポイントに、新しい働き方を踏まえた ICT 環境整備等の必要性について記載した。
7	コロナ禍でオンライン授業を始める動きがある中で、リアルな児童生徒同士の交流の重要性も認識された。学校施設を検討する際には、実空間としての学校の価値を追求していく必要がある。	「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について(中間報告)」など国等の検討状況を注視し、今後の学校施設更新を進める中で検討していく。
8	目黒区の教育に関する考え方を、設計標準に反映し、学校施設のコンセプトを明確にするべきである。	めぐろ学校教育プランに掲げる目指す子ども像及び目指す学校像の実現に向けて、教育活動をより充実させるための学校施設の視点を設定した。
9	普通教室の全体的な大きさや幅について、新 JIS 規格の机の導入により手狭となっている現状や海外の学習効果の研究結果等を踏まえ検討するべきである。	ご意見の趣旨を踏まえ、設計標準の作成及び実際の施設更新の取り組みにおいて検討していく。